

# ツアーレポ 東西南北

こも満員であった。こも満員であり、とたんに重くなつた足でペダルを踏む。では笹沢まで行こうとさらに登りにかかる。三軒程で笹沢部落についた。樹齢不詳の笹杉は道の左上にでんと構えて、我々を見下

敬遠して川原を横切つて林道に出た。ここからは登りつばなしである。路面状態は岩をけつて出来ているからすべりようなどはない。帰るハイカー、行くハイカー女子もまじえて、四、五十人に会った。途中仏岩の横腹をトンネルが出来ているが、真暗らなので、やむをえず探見燈で照らしながら押して歩く。歩く処はここ位なのだ。この辺りが一番景色のよい所である。ここで会つたハイカーが一昔前からみると、発破で岩をこわして道を作つたので、つまりなくなつてしまつたと言つていたが、我々サイクリストは道が出来るのは大歓迎である。途中食事する様な処がなかつたが、この墜道を過ぎて暫らく行つた処に下へ下りられる場所が見つかったので昼食にする。コツフェルを持つて

きたので湯をわかし、味噌汁を作つて飲む、旨かつた。この先で若いハイカー達十人位が、ザイルを使つて岩に取り付いていた。一時間休んだので元気回復、ここから二軒でユージンに着いた。メーターには神繩から十四軒と出ていた。山小屋に行くには釣橋を渡つて約二〇〇米行つた処である。晩の支度をしてハイカーが四、五人居た。外に民家が三、四軒ありて淋しい処である。三十分居たので帰路につく。一時間で神繩に本当に来た甲斐があつたと思つた。神繩より右折今夜の宿泊地中川温泉に向う。六軒しかなかつた。道より下つて信玄館に交渉したが、予約していなかつたばかりに泊ることが出来なかつた。上にも新しく旅館が出来ていたが、こ

も満員であり、とたんに重くなつた足でペダルを踏む。では笹沢まで行こうとさらに登りにかかる。三軒程で笹沢部落についた。樹齢不詳の笹杉は道の左上にでんと構えて、我々を見下していた。根元の直径は三米もあろうか、明治頃にはもう一本あつたのだそう。部落を通り過ぎて行ける処まで行つてみようとしてサドルにまたがる。ポツリポツリと雨が顔にあたる。約二軒で川に突当つた、木橋がかけられている。犬越路に行くには橋を渡つて行けばよいのだが、自転車と一緒には無理な様子。雨がひどくなりそうなのでここから引返すことにする。途中行き会つた村の人に泊めてくれる家はなにかねと、尋ねると浅次郎さんで泊めてくれるだろうという話、早速その家を訪ねた。幸に泊めて貰えることが出来たので、落合まで戻らなくて済んだ。此の辺りの仕事は植林、炭焼き、薪作り等であるそう。この家では山葵を栽培しているとかで、味噌にまで合えた山葵漬を御馳走になる。わらび、しい茸を煮た副食で晩食を御馳走になる。先客が四人居た、ハイカーが二人、県庁の人が一人、魚釣りの人一人で我々と六人になつた。前の晩は二十人から泊めたそう。おそくなつてハイカーが二人やつてきて泊まることになつた。署名簿を見ると、登山家で名前を知られた人が五、六人書いてあつた。

翌五日は端午の節句、空は五月晴、起床してこの青空を見ては嬉しくなつた。此処の主人と村の四人で猪狩りに出掛けた。被害が仲々あるそうである。厚く礼を述べて八時過ぎに出発した。世附の先、大又沢の森林鉄道の起点迄行つてみた。ここから山中湖に抜ける道路を早く作つてくれると良いのだが、これからの予定は足柄峠に登り、ここから金時山を越えて仙石原に抜けようという訳なのだ。

早々に出発。落合迄戻る。山北町の入口から地藏堂へ抜ける近道を教えて貰つた。地藏堂迄はどうか乗れる所もあるが、ここからはほとんど歩きであつた。足柄峠の茶屋の人が、金時山には自転車と一緒に走つても登れませんがと云う、がここ迄来たのだからと茶をポットに詰めてもらつて出発する。乗つて走れるが、碎石がごろ／＼しているので、走り難い道だつた。暫らく行つた所から傾斜がきつくなつてきた。とても走れません、金時山がのしかかるように見えた。鳥居からはいよいよよかつた。五分登つては五分休み、という繰り返して三十分以上かかつて頂上についた。途中一人ではどうしてもかたづけられない場所があつた。さすがの吹野君も上げられなくて小生の来るのを待つていた。二人がかりで上げてはつとす。こんな辛い体験は今后あつた場合役に立つことであろう。富士山は厚い雲にかくれてすす野しか見えなかつた。頂上は静岡県と神奈川県との境になつて居る。金時娘の居る茶屋が静岡県、もう一軒が神奈川県だ。金時娘の話では今迄自転車をかたづけ上げた人はあんな達を入れて十六、七人位だよとのことであつた。この山頂に自転車をかたづけ上げて自慢にはならぬが、忍耐力の養成にはなる。この経験は小生の限界だと思つた。学生達が太勢登つてにぎやかなことであつた。芦の湖、仙石原はすぐ目の下に見える。二十分の小憩の後下りにかかる。乙女峠を経て姥の茶屋に出るコースを選んだ。この道は登つてきた道よりややましという程度で、やはりかたづけなければならぬ処だ。登つてきた方が男坂なら此方は女坂か、乗れるようになった処から赤土になり、ブレーキをかけるとスリツプするのでブレーキをきかせながら歩けばよく見えるのに残念でした。ここは静岡の富士十景に入つて居るそう。茶を飲んですぐ下りにか

赤字に基づき記載しています  
 閲覧のみとするなど、取扱いには、注意  
 してください

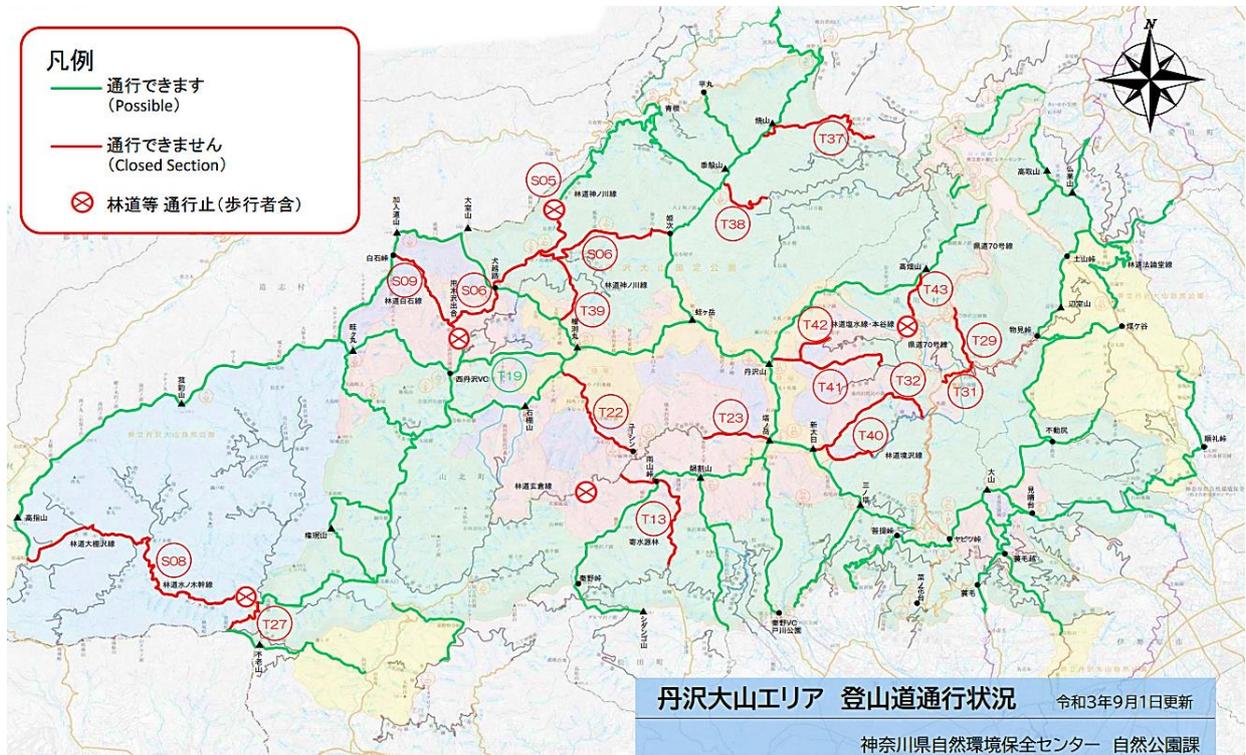
☆著作権の保護期間  
 個人の著作物の場合は、原則として創作  
 のときから「著作者の死後70年を経過  
 するまで」（著作権法第51条）、また  
 団体名義の著作物の場合は、「その著作  
 物の公表後70年を経過するまで」（著  
 権法第53条）です。  
 ※ただし、個人の著作物の場合は、著作  
 者の没年が昭和42（1967）年以前であ  
 れば、著作権が消滅しています。また、**団  
 体名義の著作物の場合は、公表年が昭和  
 42（1967）年以前であれば、著作権が  
 消滅しています。**

かる。姥の茶屋はすぐ目の下に見  
 えている。赤土のすべり易い道で  
 全然乗れる道ではない。県道に出  
 てほつとした、砂利道ではあるが  
 下り一方なので、気も軽く走り出  
 す。金時神社の祭礼がこの日にあ  
 って、道一杯に行列が歩いてい  
 いた。道理で花火が景気よくポン  
 ポン上ると思った。宮城野から待望  
 の舗装路になった。万才を叫びた  
 い気持だった。湯本迄自動車と追  
 いつ追われつの快適なダウンヒル  
 で仲々楽しめた。国府津で夕食、  
 七時に食堂を出て向い風だが、大  
 して苦にもならぬ。東海道も町内  
 は燈火が見えるがその中間は暗い  
 ので、自動車が通らない。昔は淋  
 しい筈だと思う。多摩大橋を渡る  
 頃から降り出してきた雨にもめげ  
 ず、自宅へ帰り着いたのは案外早  
 く十一時三十分過ぎであった。

3号隧道から6号隧道の間は令和4年3月末まで通行止めの予定です。

6号隧道以遠の林道は令和4年以降も改修の予定はありません。

遭難が発生するとアクセスが困難な地域となります。



玄倉川は、玄倉断層に沿った状態で流れている。

似たような地形は、道志川が挙げられる。

崩壊の原因は、大地震や豪雨などであり、関東大震災は、その  
 最たるものである。

この一帯は、寄沢層に属しており、構成する結晶片岩帯は、植生  
 回復が難しい地形であるため表層崩壊も起きやすいと言える。

結晶片岩は、片理という縞模様が見られ、その縞目に沿っては  
 げるように割れる傾向があるため崩落し易い変成岩である。

範囲は、標高400~900m 方位西・南西・北西斜面で崩壊が  
 発生しやすいという結果を得たとのこと。

